

会 議 録

1 会議名

平成 26 年度第 1 回小林古径記念美術館運営委員会

2 議題（公開・非公開の別）

〔報告事項〕

(1) 新収蔵の小林古径作品および関係資料について（公開）

(2) 平成 26 年度事業について（公開）

〔協議事項〕

(3) 今後の美術館運営についての意見交換（非公開）

〔意見交換〕

(4) 小林古径記念美術館の事業及び小林古径の顕彰について（公開）

3 開催日時

平成 26 年 8 月 29 日（金）午後 2 時 30 分から

4 開催場所

小林古径邸 画室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

議題(3)については、会議公開制度の条例第 7 条第 4 号「意思形成過程情報」に該当するため、非公開。

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：高橋信雄（委員長）、池田稔（副委員長）、上雅次、川崎日香理、齋藤弘、中條由美、洞谷亜里佐、廣川美知代、村山和夫、宮崎俊英
- ・ 事務局：野澤教育部長、中嶋館長、阿部副館長、笹川係長、市川主任

8 発言の内容

（あいさつ）

（笹川係長）：これより平成 26 年度第 1 回小林古径記念美術館運営委員会を開会いたします。会議に先立ちまして、野澤教育部長より小林古径記念美術館運営委員の委嘱状の交付を行います。

（委嘱状の交付）

（笹川係長）：野澤教育部長からごあいさつ申し上げます。

（野澤部長）：お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。このたびの報告事項にもありますように、小林古径の絶筆や落款など貴重な資料を収集することができました。これらの資料が美術館に入ったことで、上越市と小林古径の絆がより強いもの

になりましたし、これで本当にオンリーワンの美術館になったと思います。購入にあたり議会に諮ったわけですが、議員の方々からは温かい反応をいただくことができました。本日の会議では、平成 26 年度事業の中間報告とともに来年度事業の計画を皆さんに協議していただくわけですが、特に「来年度こういうことをやってほしい」というご意見やアイデアをいただきたいと思います。これを受けて平成 27 年度予算編成に臨んでまいります。ここで、皆さまに重ねてお願いがございます。博物館と美術館が合築されている現状がございますが、果たしてこれでいいのかという議論を始めたところでございます。高田開府 400 年事業を経て、ふだん上越の歴史文化を通観する場面が少ないと感じている中で、小林古径の作品や資料を収集し、高田公園の文化ゾーンをどうするかという議論を始める時がきていると思います。今回は予算面に関係なく、美術館があるべき姿について議論をしていただきたいと思っております。来年の 3 月にはいよいよ北陸新幹線が開通します。これを受けて、教育委員会でもこれまで収集したすべてのデジックアート（原寸大デジタル複製画）を展示できないか模索している所であります。時間とお金をかけて収集してきた作品や資料を市内外に押し出していく絶好の機会ととらえております。本日は委員の皆さまにぜひ忌憚のないご意見を頂戴したいと考えております。

(笹川係長)：事務局の紹介のあと、委員の皆さまから自己紹介を頂戴したいと思います
(事務局および委員自己紹介)

(笹川係長)：委員長、副委員長の選出をお願いしたい。選出については、小林古径記念美術館運営委員会設置要綱第 5 条で委員の互選で定められている。いかがいたしましょうか。

(委員)：事務局案をお願いしたい。

(笹川係長)：それでは、委員長には高橋信雄委員、副委員長には池田稔委員を案としてお示ししたい。いかがでしょうか。

(同意多数)

(笹川係長)：それでは委員長に高橋信雄委員、副委員長は池田稔委員に決しました。それでは、これからの議事進行をお願いします。

(高橋委員長)：それでは議事に入ります。

(1) 報告事項「新収蔵の小林古径作品および関係資料について」

(笹川係長)：事前に配布いたしました資料には、「新収蔵の小林古径作品及び関係資料について」の説明資料、写真、一覧表が添付されています。今回の収集に関しましては、小林古径記念美術館にとりまして重要な作品及び資料でありますので、報告事項の中に上げさせていただいた。会議終了後に美術館収蔵庫で収集した作品と資料の一部をご覧いただけるよう準備をしています。後ほどご都合のつく方はご覧いただきたいと思っております。

(笹川係長が説明)

(高橋委員長)：何かご意見やご質問はありませんか。

(なし)

(高橋委員長)：のちほど資料を実際にご覧いただき、内容についてご質問いただければと思う。

(2) 報告事項「平成 26 年度事業について」

(笹川係長が説明)

(高橋委員長)：何かご意見やご質問はありませんか。

(なし)

(3) 協議事項「平成 27 年度事業計画案について」（非公開）

(4) 意見交換「小林古径記念美術館の事業及び小林古径の顕彰について」

(高橋委員長)：今後の小林古径記念美術館の事業について、展覧会事業や教育普及事業、作品収集事業など、あるいは小林古径の顕彰事業全般につきまして、意見交換という形で自由に意見を出していただき、今後の美術館の運営に反映させていきたいと思う。将来的な事業でも結構ですので、ご意見をお願いしたい。

(中嶋館長)：このたびの将来計画と言うのは、総合博物館の老朽化にともなって出てきた話である。博物館と美術館が同居をしている現状というのは来館者にとって混乱を招く上、小林古径邸と美術館が分かれて建っているのもわかりにくい。この機会に美術館の将来像について皆さんにご意見を伺いたいと思う。

(池田委員)：今の世の中、美術館と博物館を独立させて運営するのは非常に難しいと思う。私が会長を務めている「上越市美術協会」はもともと市立美術館を建設してほしい、という思いを受けて発足した会である。しかし今の状況を考えると、そう簡単に分離して新しい美術館を建てるのは難しい。

(高橋委員長)：美術館と博物館が併設されている現状であるが、やはり美術館と博物館とをきちっと分けて、独立した美術館として整備していくことが必要と思う。高田開府 400 年を迎えて歴史や文化に対する市民の意識が少し高まってきたように思う。これを契機として「上越市には美術館が必要なんだ」という機運をもっと高めていく必要がある。委員の皆さんに美術館のあり方を議論していただき、美術館整備へとつなげられればいいと思う。

(上 委 員)：美術館と博物館が併設している状況は非常にわかりにくいと思う。未だに美術館のことを博物館と思っている人はたくさんいると思う。やはり博物館は上越の歴史を展示する博物館として、美術館は美術に特化した館として整備することが望ましい。充実した資料を収集し、適正な人員を配置し、10 年、20 年という長いスパンの中で運営をしていくことが必要である。

(高橋委員長)：かつての博物館のことを良くご存じの池田委員がおっしゃっていることももっともだと思う。しかし、大事なのは今の時代の前提の中で新しい美術館を作って、うまく運営していくことである。ハードではなく、ソフト＝運営のしかたが大事ではないか。

(池田委員)：確かに、私が博物館にいた頃は収蔵資料がなくて本当に苦労した。展覧会をやるにしても、所蔵品が充実していれば、交換条件として有利に借用できることが多い。今の美術館は違う。貴重な資料が揃った。これを生かしていくことこそ大事である。

(高橋委員長)：やはり開府 400 年事業を経て市民の意識が少しずつ変わってきたように思う。博物館も美術館ももっと充実する必要がある。市民の気持ちとしては、これから独立した美術館として整備して行ってほしい。

(村山委員)：全国発信できるようなニュースは、NHKの日曜美術館でPRしてもらっても良いのではないか。

(高橋委員長)：その他、この場で何か審議やご報告等がありますか。

<なし>

ないようですので、これで議事を終了したいと思います。

(笹川係長)：委員長ありがとうございました。最後に中嶋館長が挨拶いたします。

(中嶋館長)：本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございました。新しい委員の皆様も加わっていただき、かなり難しい問題もありましたが、多くのご意見を頂

戴しました。これを受けて新年度事業や美術館運営に活かしてまいりたいと思います。
本日はご出席いただきましてありがとうございました。

(笹川係長)：以上で運営委員会を終了します。

(終了)

9 問合せ先

小林古径記念美術館 TEL025-523-8680

E-mail : kokei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。